

# 穏やかな日常願い



## 盛岡二高書道部が揮毫

### 和プロジェクト 世界平和の祈り TAISHIHI

名古屋市内に拠点を置く任意団体「和プロジェクトTAISHIHI」（宮本辰彦代表）は21日、「第6回9・21世界平和の祈り」を全国各地の会場で開催した。国連の定める「国際平和デー」である同日に合わせ、広島市と長崎市の平和公園、全国48の護国神社、東京都の靖国神社、世界の平和と新型コロナウイルス禍の終息を願う平和揮毫（きご）を実施。本県では、盛岡市八幡町の岩手護国神社で、盛岡二高書道部（藤岡琉宇部長、部員9人）が、穏やかな日常への願いを込めた書をしたためた。

各地の会場で、全国44校の高校書道部と36人の書道家が揮毫。加えて、靖国神社では14カ国の特命全権大使が完成した作品を掲げて笑顔の部員たち

平和メッセージを寄せ書きした。

同校書道部の参加は3回目。2年の藤岡部長、岩淵史穂さん、大津里佳子さん、佐々木美桜さん、澁田優歩さんの5人が参拝の後、

揮毫を開始。始めに大津さんが「安寧」の言葉を堂々と書き、続いてほかのメンバーも役割分担に沿って書き進め、1・5×2・8サイズの作品を完成させた。

揮毫する言葉は1年生を含む部員らで話し合っただけで、絵の具で紙を淡く着色して柔らかさも表現。

藤岡部長は「コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻などいろいろなことが起きる中、不安が和らいで穏やかな生活に戻ってほしい」と思いを込めた。

「穏やかな日常には人との関わり、差別をなくすことが必要。みんなで助け合って、幸せをつかみ取れる世界になれば」と思いを込めた。

同プロジェクトの宮本代表は開催に当たり、「わが国の建国の精神は、人々が一つ屋根の下で家族のように仲良く暮らすこと。明治維新の後にわが国が目指したのは、道義国家、すなわち世界の手本となる国。いまこそ私たちは原点に立ち返り、自然を尊び、世界平和に貢献する国として、リーダーシップを発揮するときにではないか」と言葉を寄せた。

（盛岡タイムス）